

2023年度の生乳及び牛乳乳製品の 需給見通しと課題について

2023年7月28日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- (1) 北海道及び都府県の予測値は、2023 年 5 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。
- (2) 要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。
- (3) 酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果については、考慮していない（2023 年 5 月までは実績として反映）。なお、北海道は北海道農協酪農畜産対策本部委員会における生産目標数量を基本に予測した。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2023 年 5 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 POS データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- (1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- (2) 自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- (3) 飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- (1) 脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- (2) 脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2023 年 5 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳や代替乳製品の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
- (3) 脱脂粉乳・バターの在庫月数は、今年度予測の 1 ヶ月平均出回り量を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測 (P15の説明)

- (1) 「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- (2) 「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

(1) 飲用等向・はっ酵乳向生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年8月からの飲用等向・はっ酵乳向生乳取引価格引き上げによる需要の減少について、牛乳・乳製品の価格と需要の相関を消費者物価指数または販売記録データ(POSデータ)と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

消費者物価指数の飲料全体(はっ酵乳は乳製品全体)に対する牛乳等生産量の各カテゴリ(P7)の相対価格指数を算出し、価格が10%改定(加工乳、はっ酵乳は5%改定)したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、牛乳等生産量予測のうち牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳とした。

※消費者物価指数

総務省統計局公表。消費者が購入するモノやサービスなどの物価の動きを把握するための統計指標。現在時点の価格を、基準時点(2020年)の価格を100として指数化したもの。全国の世帯が購入する家計に係る財及びサービスの価格等を総合した物価の変動を時系列的に測定する。

※参考 価格改定率

	価格改定率(8月～)
牛乳	+10%
加工乳	+5%
成分調整牛乳	+10%
乳飲料	+10%
はっ酵乳	+5%
チーズ向	—
生クリーム等向	—
脱脂粉乳(出回り)	—
バター(出回り)	—

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2022年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	657	102.0%	364	103.5%	293	100.3%
5月	679	101.2%	379	102.5%	299	99.7%
6月	643	100.4%	364	100.8%	279	99.7%
7月	645	101.0%	372	101.5%	274	100.3%
8月	627	99.8%	364	100.9%	263	98.2%
9月	606	98.8%	349	99.1%	257	98.5%
10月	622	98.6%	353	98.5%	269	98.8%
11月	597	97.2%	337	97.0%	260	97.5%
12月	621	96.2%	350	95.5%	272	97.2%
1月	624	96.0%	350	95.3%	275	96.9%
2月	570	95.5%	318	94.7%	252	96.5%
3月	641	95.3%	355	94.5%	286	96.1%
第1四半期	1,978	101.2%	1,107	102.3%	871	99.9%
第2四半期	1,879	99.9%	1,085	100.5%	794	99.0%
第3四半期	1,840	97.3%	1,039	97.0%	801	97.8%
第4四半期	1,836	95.6%	1,023	94.8%	813	96.5%
上期	3,857	100.6%	2,192	101.4%	1,665	99.5%
下期	3,676	96.4%	2,062	95.9%	1,614	97.2%
年度計	7,533	98.5%	4,254	98.7%	3,279	98.3%

表1-2：2023年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績 白色：見通し）

（千トン）

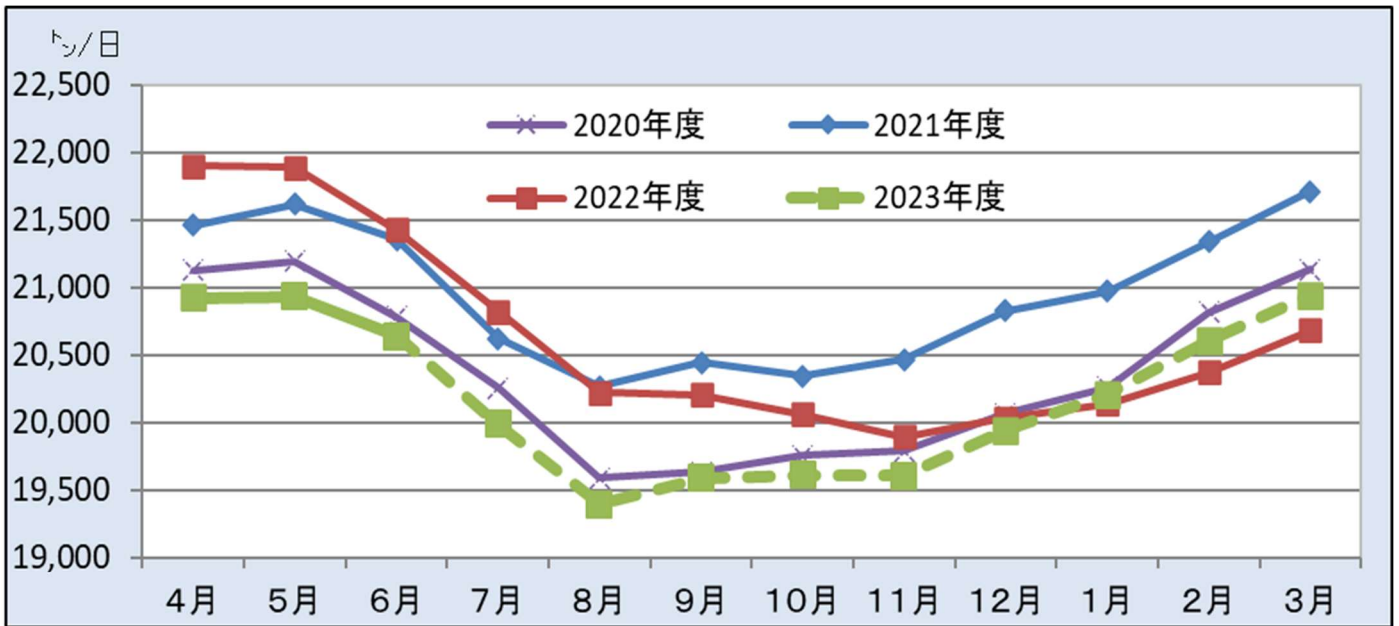
	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	628	95.6%	349	95.9%	279	95.2%
5月	649	95.6%	366	96.6%	282	94.5%
6月	619	96.3%	356	97.8%	263	94.3%
7月	620	96.0%	362	97.2%	258	94.3%
8月	601	95.9%	354	97.3%	247	94.1%
9月	588	97.0%	344	98.6%	244	94.8%
10月	608	97.8%	352	99.6%	256	95.3%
11月	588	98.5%	338	100.5%	250	96.0%
12月	618	99.5%	355	101.5%	263	97.0%
1月	626	100.4%	358	102.3%	269	97.9%
2月	598	104.8%	340	106.8%	258	102.2%
3月	649	101.3%	366	103.1%	283	98.9%
第1四半期	1,896	95.8%	1,071	96.8%	825	94.7%
第2四半期	1,809	96.3%	1,060	97.7%	749	94.4%
第3四半期	1,814	98.6%	1,045	100.5%	769	96.1%
第4四半期	1,873	102.0%	1,064	104.0%	810	99.6%
上期	3,705	96.1%	2,131	97.2%	1,574	94.5%
下期	3,688	100.3%	2,108	102.3%	1,579	97.9%
年度計	7,393	98.1%	4,239	99.7%	3,153	96.2%

【2023年度生乳生産の見通し】北海道4,239千トン・同99.7%、都府県3,153千トン・同96.2%、全国7,393千トン・前年比98.1%の見通しである。北海道、都府県ともに前年を下回り、2年連続の減産となる見通し。

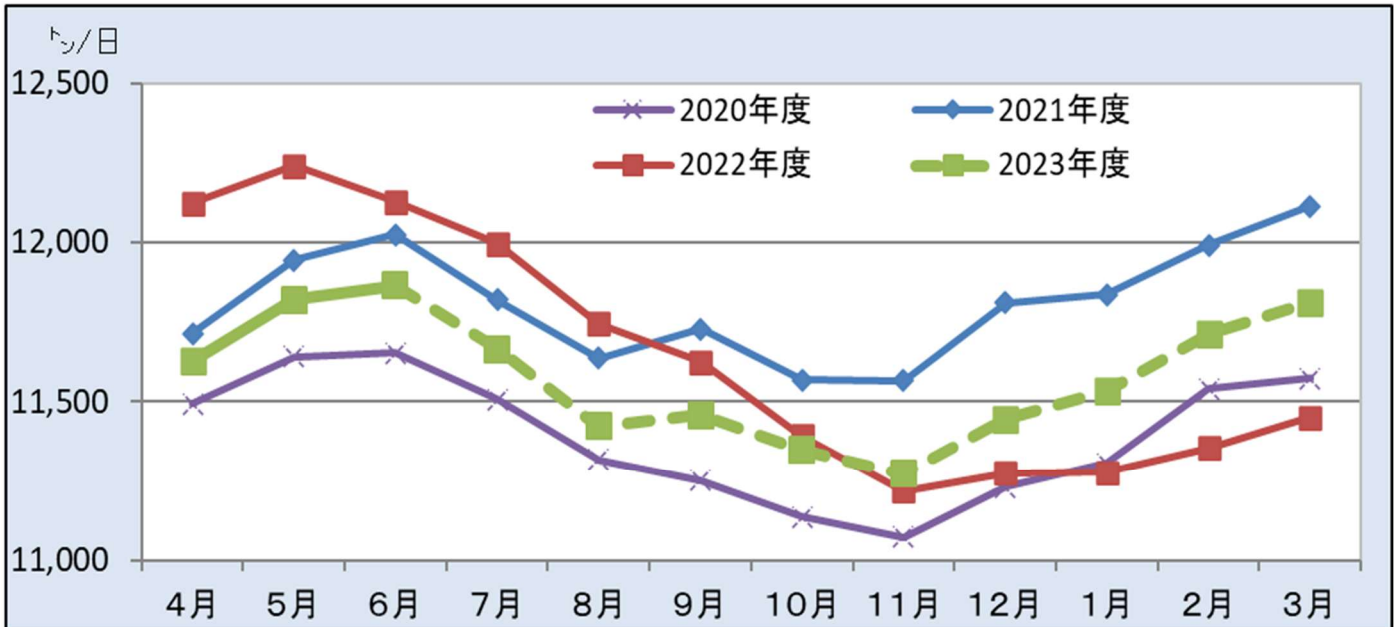
※7月以降の酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果は、考慮していない（6月までは実績として反映）。なお、北海道は北海道農協酪農畜産対策本部委員会における生産目標数量を基本に予測した。

【前回見通し（5/26公表）】北海道4,233千トン・同99.5%、都府県3,185千トン・同97.1%、全国7,418千トン・前年比98.5%

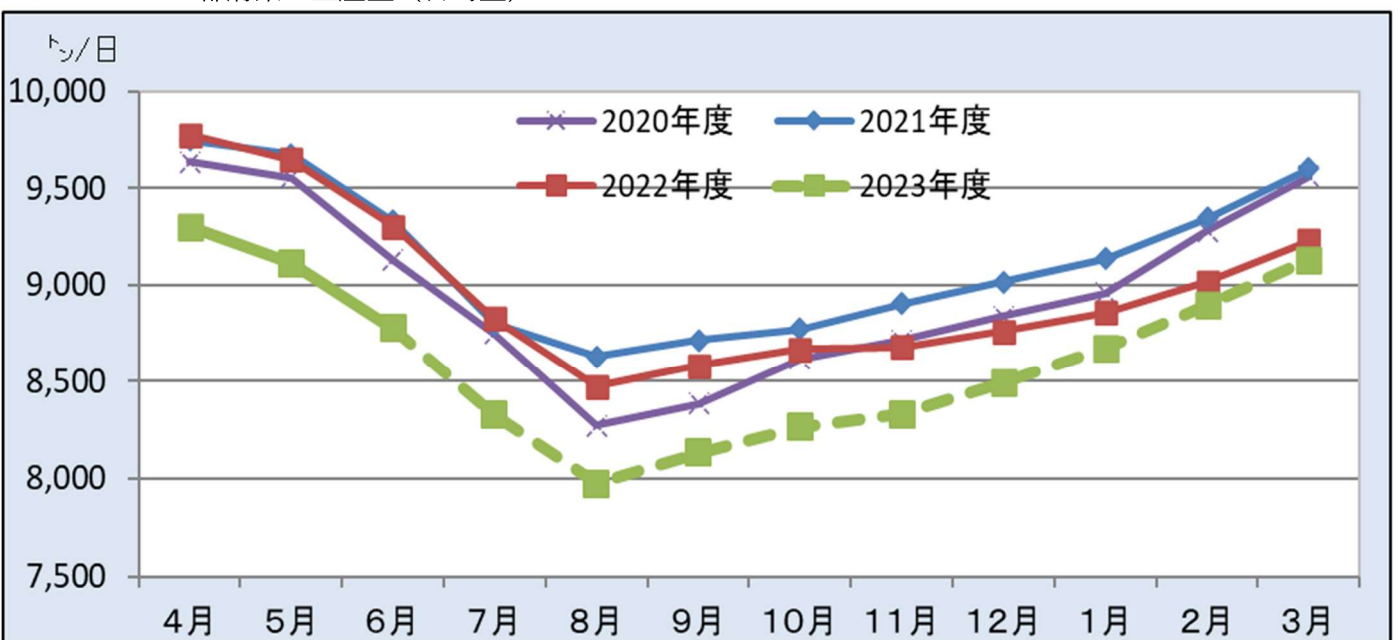
グラフ1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ1-2：北海道の生産量（日均量）

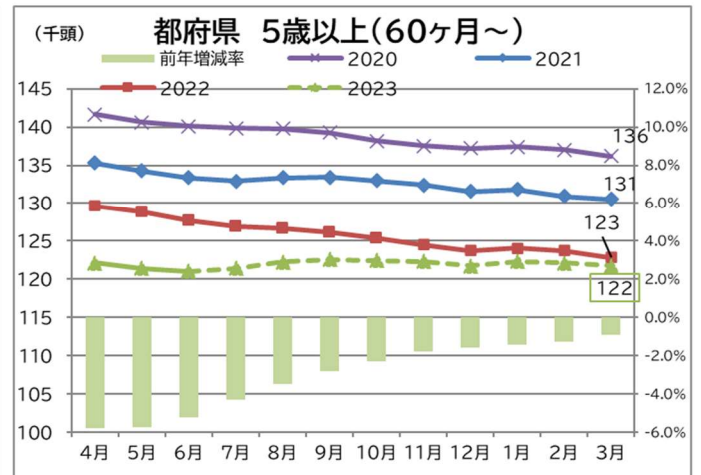
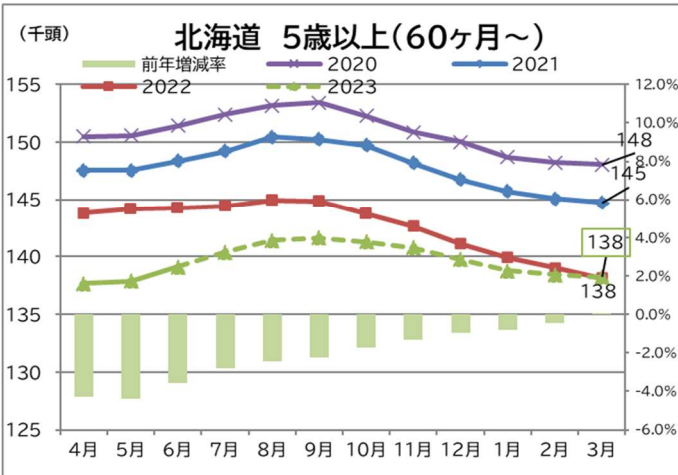
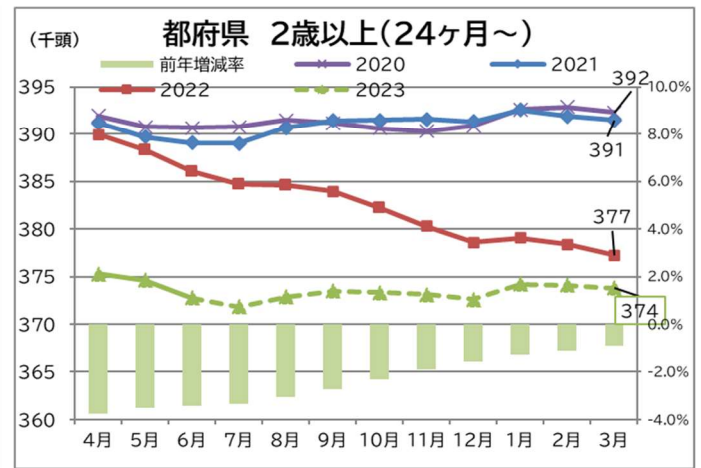
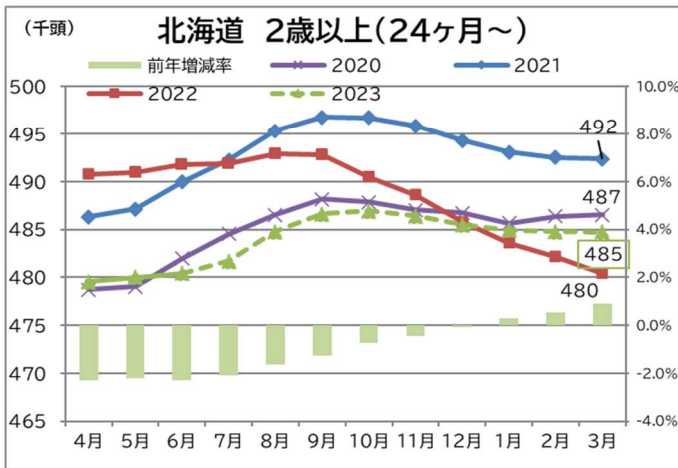
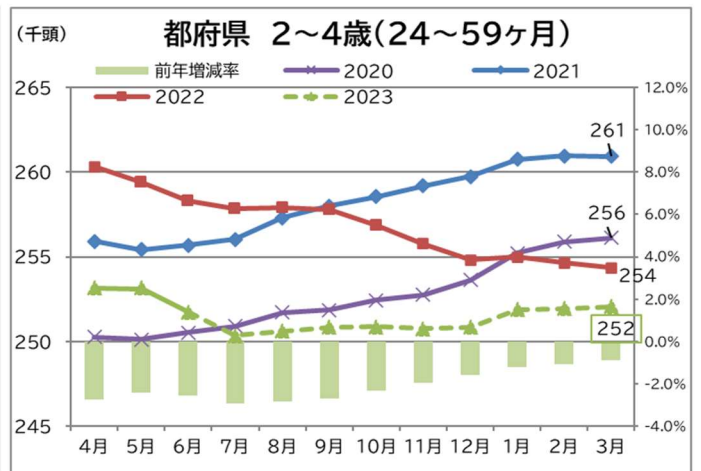
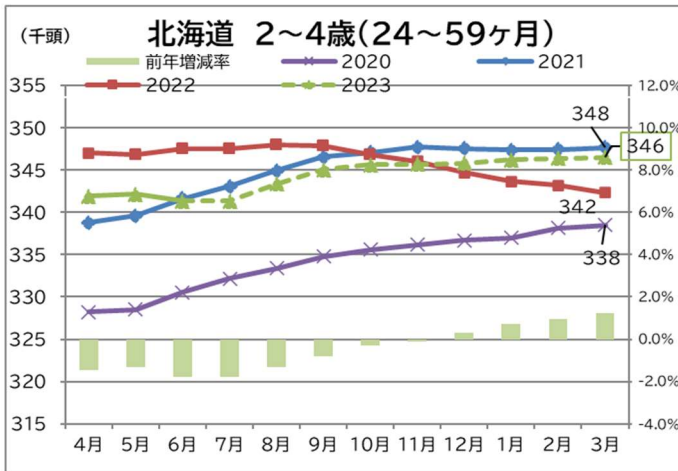
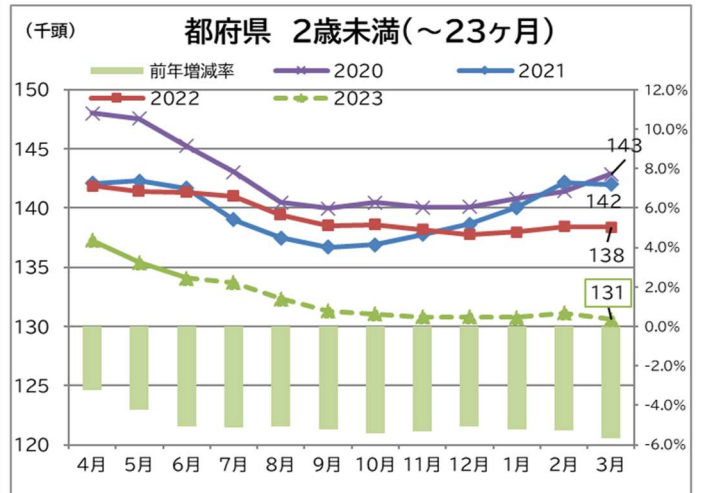
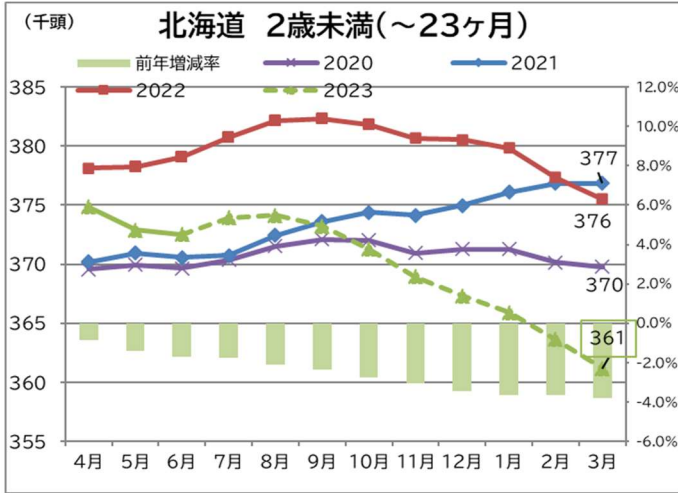


グラフ1-3：都府県の生産量（日均量）

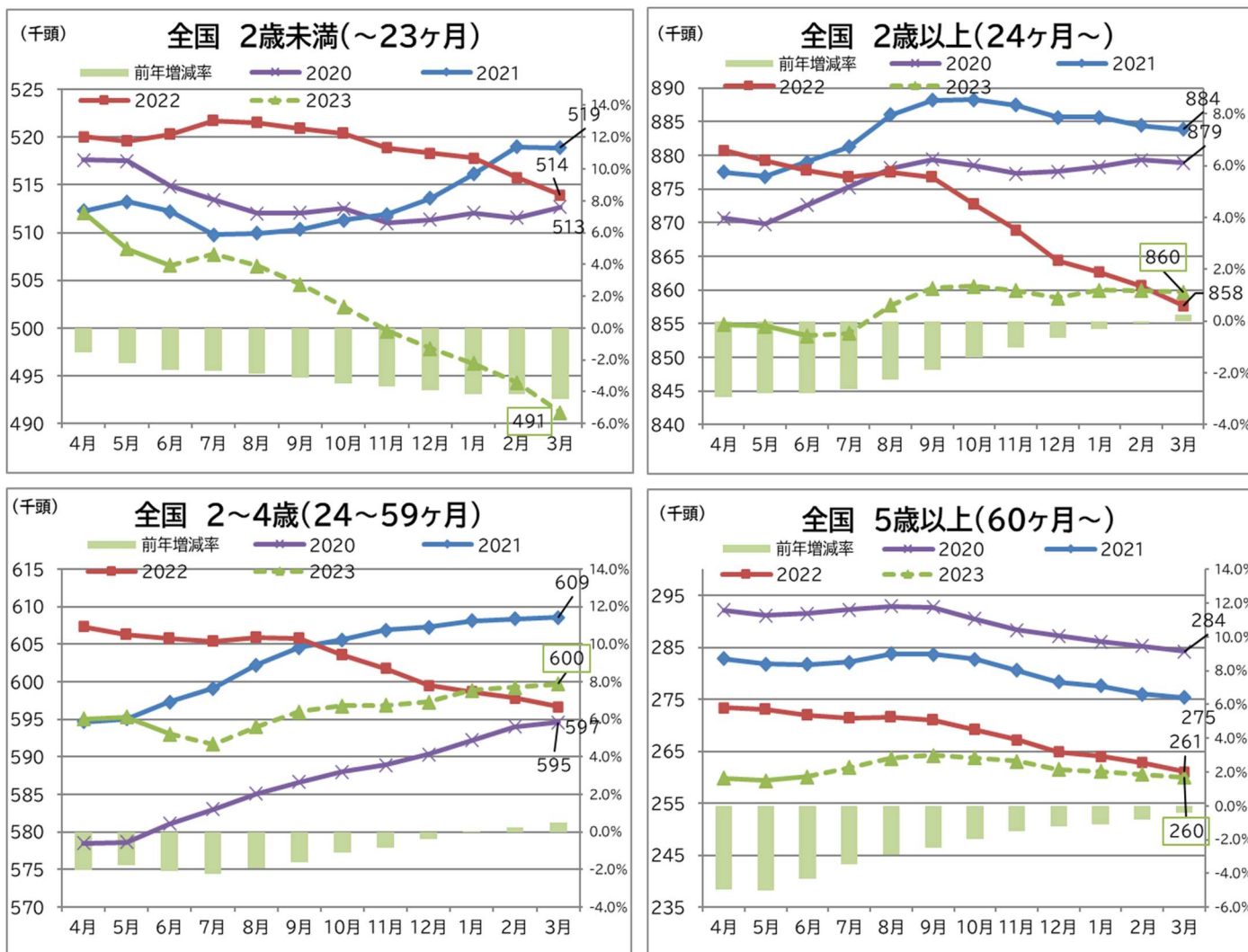


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2023年7月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2023年7月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2023年5月まで実績）



【2023年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数(3月末時点)は北海道で約15千頭、都府県で約7千頭減少する見通し。乳用雌牛出生頭数(4-5月累計)は、北海道は前年比91.9%、都府県は同78.5%、全国では89.0%と前年よりも大きく減少している。
- ・搾乳牛となる2歳以上頭数(3月末時点)は都府県では約3千頭減少、北海道は約5千頭増加する見通し。北海道では1月以降に2022年度を上回る予測となっている。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1: 2022年度の牛乳等生産量(網掛け:実績)

(千kl)

	牛乳類										加工乳	成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳				
	牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外			前年比	前年比	前年比	前年比					
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比												
4月	382	99.9%	261	100.5%	26	95.0%	235	101.2%	24	97.0%	211	101.7%	10	112.0%	21	97.2%	89	97.5%	90	91.2%
5月	400	98.8%	275	98.9%	35	100.5%	241	98.7%	25	101.5%	216	98.4%	10	110.7%	22	95.2%	93	98.0%	92	92.4%
6月	401	98.1%	275	97.7%	39	97.7%	236	97.8%	22	93.7%	214	98.2%	10	107.3%	22	95.8%	94	98.7%	91	92.4%
7月	400	99.1%	270	99.7%	22	95.7%	248	100.0%	22	89.1%	226	101.2%	10	102.2%	23	98.2%	97	97.3%	91	93.1%
8月	394	100.8%	261	100.8%	7	119.2%	255	100.4%	26	96.8%	229	100.8%	11	119.2%	22	96.1%	99	100.1%	91	95.2%
9月	405	99.7%	277	99.9%	34	102.7%	243	99.5%	25	94.9%	219	100.0%	11	111.6%	22	96.6%	95	99.0%	88	93.2%
10月	406	99.8%	281	100.0%	36	97.1%	245	100.4%	29	103.1%	216	100.1%	12	114.0%	21	97.2%	92	98.1%	88	92.0%
11月	380	100.0%	260	98.4%	35	98.8%	224	98.3%	27	101.1%	197	97.9%	13	114.8%	20	97.1%	88	103.8%	81	90.5%
12月	363	98.2%	248	97.0%	28	95.8%	220	97.1%	25	105.1%	195	96.2%	13	114.3%	19	94.6%	82	100.8%	80	93.2%
1月	365	96.9%	251	95.6%	29	107.1%	221	94.3%	23	97.6%	199	93.9%	12	119.3%	20	93.3%	82	99.2%	84	92.5%
2月	341	97.1%	238	96.5%	34	110.4%	203	94.5%	20	89.8%	183	95.1%	11	111.9%	18	90.9%	75	98.8%	78	90.9%
3月	372	97.6%	252	96.7%	23	98.7%	229	96.5%	25	94.1%	204	96.9%	12	109.5%	20	93.1%	88	99.7%	86	90.2%
第1四半期	1,183	98.9%	811	99.0%	100	97.9%	711	99.2%	71	97.4%	641	99.4%	31	110.0%	65	96.1%	277	98.1%	272	92.0%
第2四半期	1,199	99.8%	809	100.1%	63	101.6%	746	100.0%	72	93.7%	674	100.7%	31	110.8%	67	97.0%	292	98.8%	270	93.8%
第3四半期	1,149	99.3%	789	98.5%	99	97.3%	690	98.7%	82	103.0%	608	98.1%	38	114.3%	61	96.3%	262	100.8%	249	91.9%
第4四半期	1,078	97.2%	740	96.3%	86	106.0%	654	95.1%	68	93.9%	586	95.3%	35	113.5%	58	92.4%	245	99.3%	248	91.2%
上期	2,382	99.4%	1,620	99.6%	163	99.3%	1,458	99.6%	143	95.5%	1,315	100.1%	62	110.4%	132	96.5%	568	98.4%	542	92.9%
下期	2,228	98.3%	1,529	97.4%	185	101.2%	1,344	96.9%	150	98.7%	1,194	96.7%	73	114.0%	119	94.4%	507	100.0%	496	91.5%
年度計	4,610	98.8%	3,149	98.5%	348	100.3%	2,801	98.3%	293	97.1%	2,509	98.4%	135	112.3%	250	95.5%	1,076	99.2%	1,039	92.2%

表3-2: 2023年度の牛乳等生産量(網掛け:実績 白色:見通し)

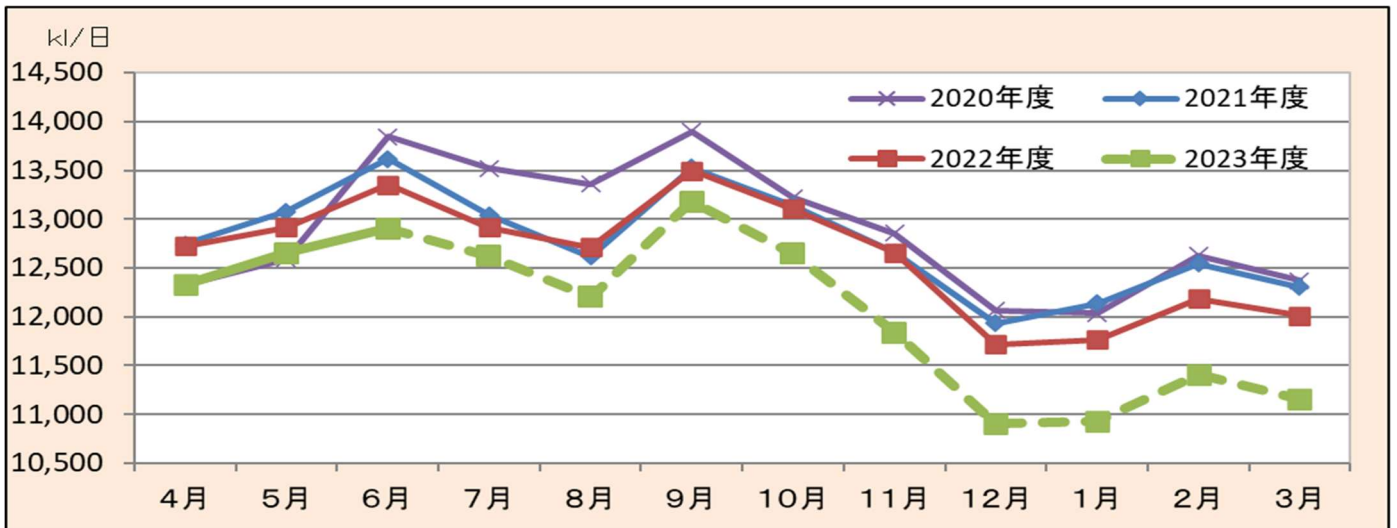
(千kl)

	牛乳類										加工乳	成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳				
	牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外			前年比	前年比	前年比	前年比					
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比												
4月	370	96.9%	252	96.8%	27	101.3%	226	96.2%	23	95.0%	203	96.4%	12	115.3%	20	92.5%	86	96.3%	83	92.3%
5月	392	98.0%	268	97.5%	35	101.3%	233	96.9%	22	90.0%	211	97.7%	12	113.1%	21	94.1%	91	98.6%	86	94.0%
6月	387	96.6%	266	96.7%	37	96.0%	228	96.8%	19	88.4%	209	97.6%	11	108.0%	20	93.4%	91	96.0%	86	95.0%
7月	391	97.7%	264	97.5%	23	102.6%	241	97.0%	23	107.1%	217	96.1%	11	109.5%	21	93.9%	96	98.1%	85	92.6%
8月	378	96.0%	248	94.7%	6	88.8%	242	94.8%	24	93.1%	218	95.0%	11	104.7%	22	96.1%	98	98.6%	80	88.4%
9月	395	97.6%	268	96.7%	33	98.4%	235	96.4%	26	103.7%	209	95.6%	11	105.8%	20	94.3%	95	100.3%	80	91.1%
10月	392	96.5%	269	95.9%	36	102.0%	233	95.0%	26	91.8%	207	95.5%	12	100.9%	20	91.2%	91	98.9%	80	91.8%
11月	355	93.5%	251	96.6%	35	100.1%	216	96.1%	27	97.3%	189	95.9%	12	93.9%	18	90.5%	75	85.1%	75	91.8%
12月	338	93.1%	239	96.4%	29	102.3%	211	95.7%	25	97.3%	186	95.4%	13	95.3%	17	87.8%	69	83.9%	72	90.4%
1月	339	92.8%	240	95.8%	29	98.8%	211	95.4%	22	96.8%	189	95.3%	11	92.4%	18	88.0%	70	85.0%	77	92.2%
2月	331	97.0%	236	99.3%	34	99.8%	202	99.3%	20	101.0%	182	99.1%	11	99.5%	17	93.0%	67	90.2%	77	98.4%
3月	346	92.9%	240	95.2%	22	95.7%	218	95.2%	24	95.3%	194	95.2%	11	95.9%	18	87.2%	77	87.0%	83	96.7%
第1四半期	1,149	97.2%	786	97.0%	99	99.2%	687	96.6%	64	91.2%	623	97.2%	34	112.2%	60	93.3%	268	97.0%	255	93.8%
第2四半期	1,165	97.1%	779	96.3%	62	98.8%	717	96.1%	73	101.0%	644	95.6%	34	106.6%	63	94.8%	289	99.0%	245	90.7%
第3四半期	1,085	94.4%	760	96.3%	100	101.4%	659	95.6%	78	95.4%	581	95.6%	36	96.6%	55	89.9%	235	89.6%	227	91.3%
第4四半期	1,015	94.2%	716	96.8%	85	98.3%	631	96.5%	66	97.5%	565	96.4%	34	95.8%	52	89.3%	214	87.3%	237	95.7%
上期	2,314	97.1%	1,566	96.6%	161	99.1%	1,405	96.4%	137	96.1%	1,267	96.4%	68	109.3%	124	94.0%	557	98.0%	500	92.3%
下期	2,101	94.3%	1,476	96.5%	185	100.0%	1,290	96.0%	144	96.3%	1,146	96.0%	70	96.2%	107	89.6%	449	88.5%	464	93.5%
年度計	4,415	95.8%	3,041	96.6%	346	99.6%	2,695	96.2%	282	96.2%	2,414	96.2%	138	102.3%	230	91.9%	1,006	93.5%	965	92.9%

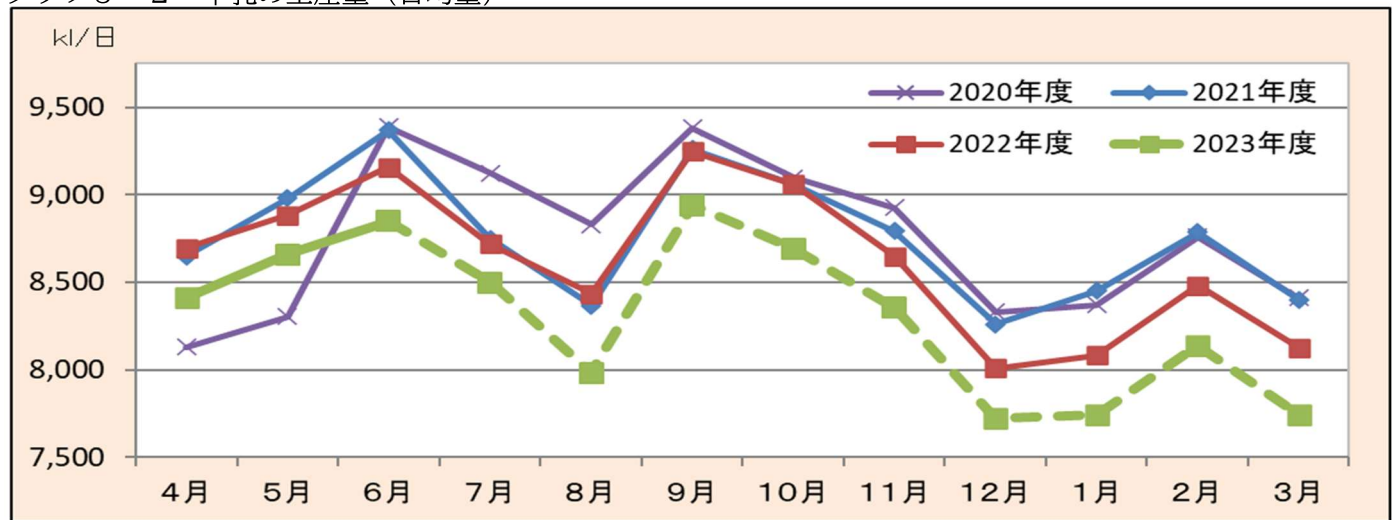
【2023年度の牛乳等生産量の見通し】 「牛乳類」は4,415千kl・前年比95.8%。内訳として「牛乳」3,041kl・同96.6%、「加工乳」138千kl・同102.3%、「成分調整牛乳」230千kl・同91.9%、「乳飲料」1,006千kl・同93.5%。「はっ酵乳」は、965千kl・同92.9%と見込んだ。生乳取引価格改定となる8月以降は、需要が更に減少すると見通した(※過去の生乳取引価格引き上げと需要減少の相関を基に予測(前提条件等はP1-2を参照))。

【前回見通し(5/26公表)】: 「牛乳類」4,442千kl・前年比97.1%。内訳として「牛乳」3,053kl・同97.0%、「加工乳」135千kl・同100.4%、「成分調整牛乳」240千kl・同95.9%、「乳飲料」1,014千kl・同97.2%。「はっ酵乳」899千kl・同95.1%。

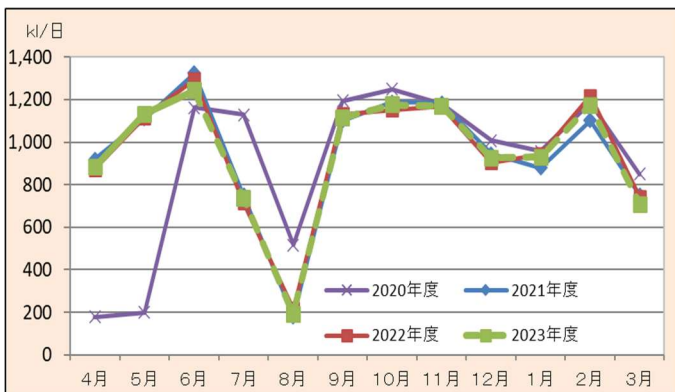
グラフ3-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



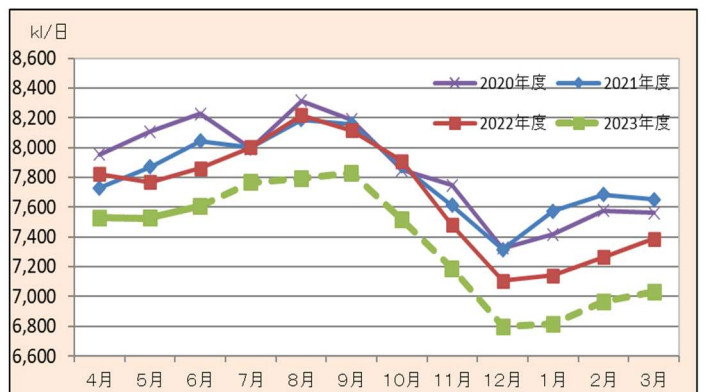
グラフ3-2：牛乳の生産量（日均量）



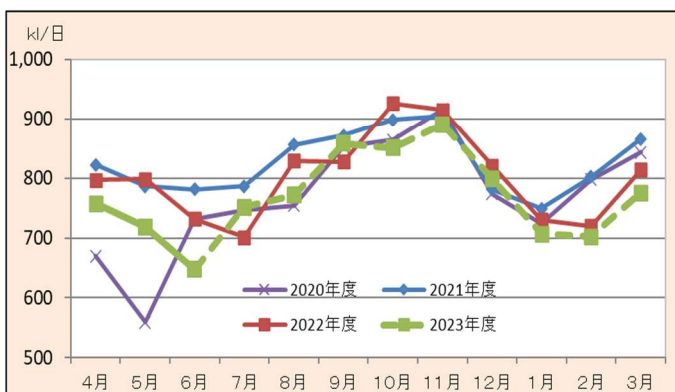
グラフ3-3：学乳の生産量（日均量）



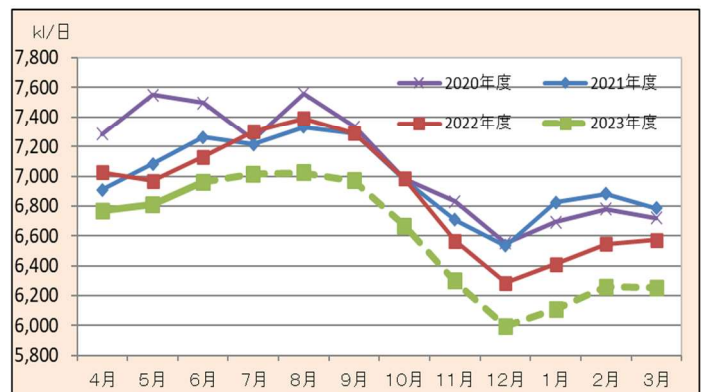
グラフ3-4：学乳以外の生産量（日均量）



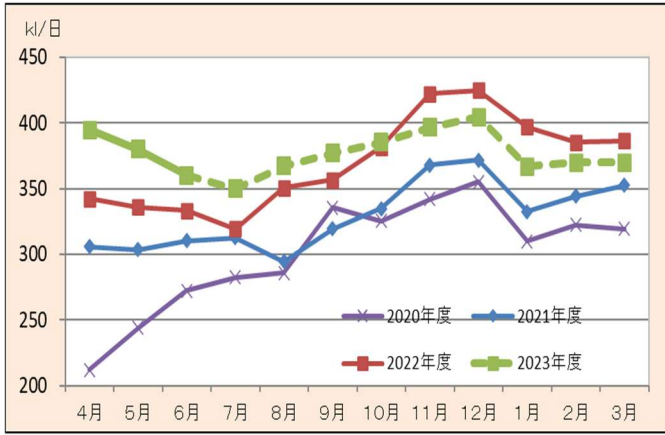
グラフ3-5：業務用の生産量（日均量）



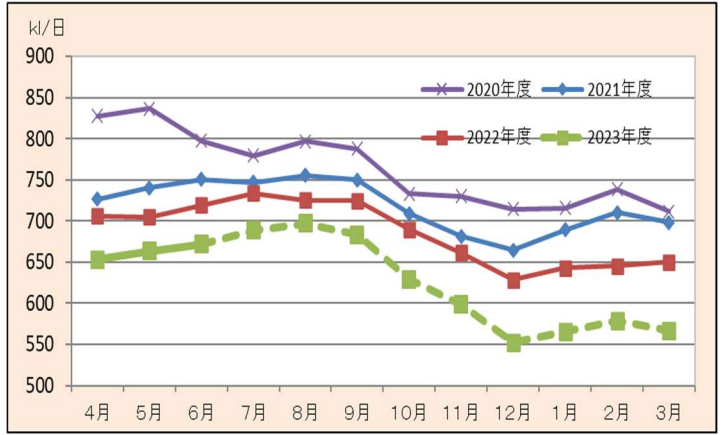
グラフ3-6：業務用以外の生産量（日均量）



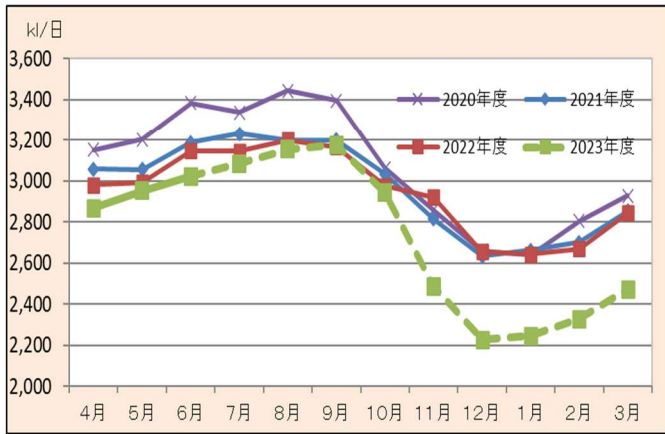
グラフ 3-7：加工乳の生産量（日均量）



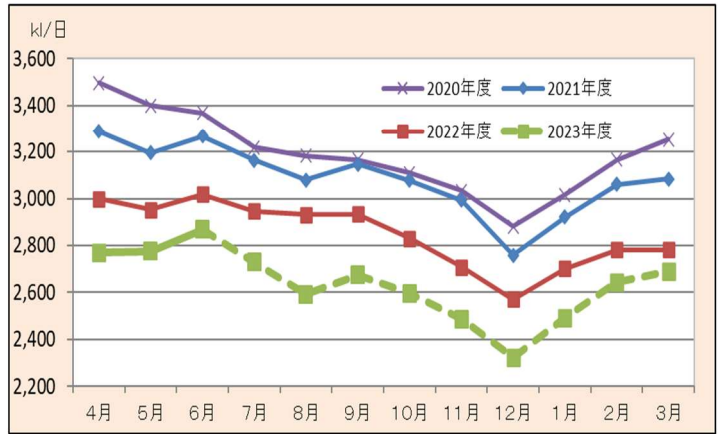
グラフ 3-8：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3-9：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 3-10：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2022年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	657	102.0%	4	91.0%	653	102.1%	333	100.1%	320	104.3%	179	105.9%	38	98.4%	104	103.8%
5月	679	101.2%	4	91.6%	675	101.3%	350	98.9%	325	104.1%	180	105.2%	40	108.6%	105	100.7%
6月	643	100.4%	4	91.5%	639	100.4%	348	97.7%	291	103.8%	150	105.3%	38	105.4%	103	101.3%
7月	645	101.0%	4	89.0%	642	101.1%	350	101.4%	291	100.6%	145	100.6%	40	107.9%	107	98.1%
8月	627	99.8%	4	90.6%	623	99.8%	336	100.4%	288	99.2%	148	98.3%	38	105.3%	102	98.4%
9月	606	98.8%	4	93.6%	602	98.9%	349	99.9%	253	97.4%	117	94.8%	35	102.5%	101	99.0%
10月	622	98.6%	4	96.3%	618	98.6%	353	99.5%	265	97.4%	123	95.0%	35	97.5%	107	100.4%
11月	597	97.2%	4	93.7%	593	97.2%	325	98.8%	268	95.4%	126	91.7%	36	109.2%	107	95.9%
12月	621	96.2%	4	94.9%	617	96.2%	313	98.0%	304	94.4%	162	92.6%	39	100.8%	103	95.2%
1月	624	96.0%	4	91.6%	620	96.0%	319	96.0%	301	96.1%	165	94.2%	39	105.4%	98	96.0%
2月	570	95.5%	4	95.0%	567	95.5%	300	96.7%	267	94.1%	142	90.1%	33	98.4%	92	99.4%
3月	641	95.3%	4	103.1%	637	95.2%	321	96.8%	316	93.7%	171	89.4%	39	97.9%	107	99.7%
第1四半期	1,978	101.2%	11	91.4%	1,967	101.3%	1,031	98.8%	936	104.1%	508	105.5%	116	104.0%	312	101.9%
第2四半期	1,879	99.9%	11	91.0%	1,867	99.9%	1,035	100.6%	832	99.1%	410	98.0%	113	105.3%	309	98.5%
第3四半期	1,840	97.3%	12	95.0%	1,828	97.3%	991	98.8%	838	95.7%	411	93.0%	110	102.3%	316	97.1%
第4四半期	1,836	95.6%	12	96.4%	1,824	95.6%	940	96.5%	884	94.6%	477	91.3%	111	100.6%	296	98.3%
上期	3,857	100.6%	23	91.2%	3,834	100.6%	2,066	99.7%	1,768	101.7%	918	102.0%	229	104.7%	621	100.2%
下期	3,676	96.4%	23	95.7%	3,652	96.4%	1,931	97.6%	1,721	95.1%	888	92.1%	221	101.4%	612	97.7%
年度計	7,533	98.5%	46	93.4%	7,486	98.5%	3,997	98.7%	3,489	98.4%	1,806	96.9%	450	103.0%	1,233	98.9%

表4-2：2023年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績 白色：見通し）

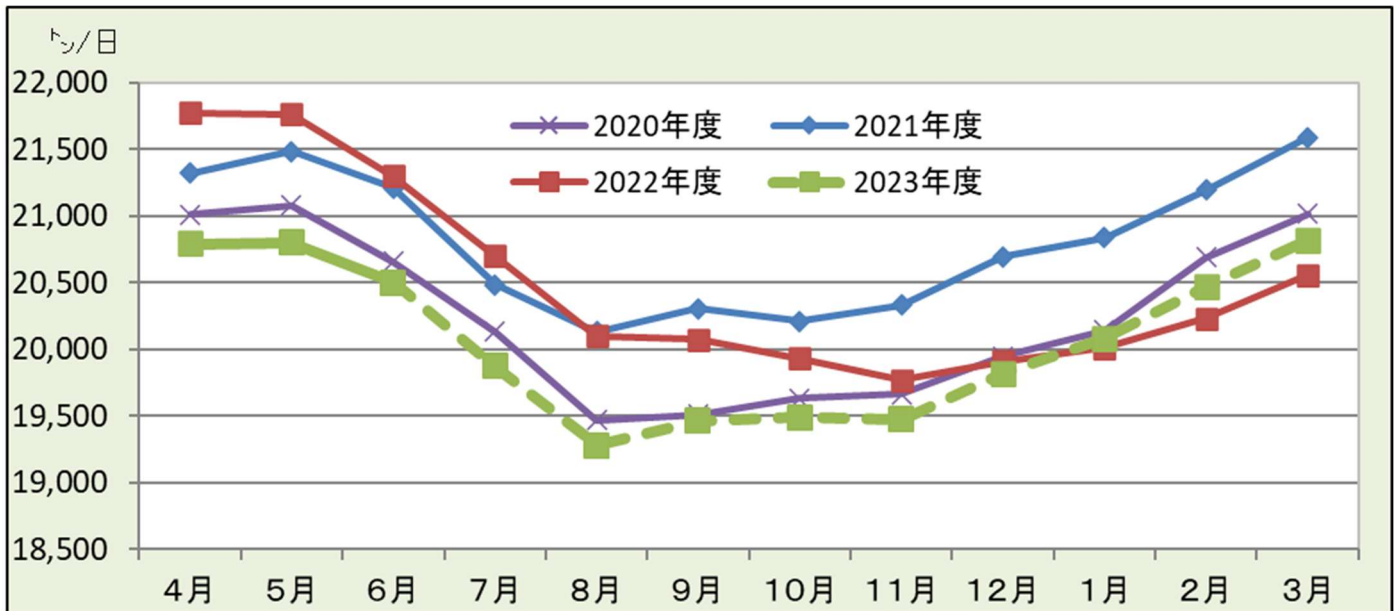
（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	628	95.6%	4	105.0%	624	95.5%	321	96.4%	303	94.6%	163	91.0%	39	103.1%	101	97.7%
5月	649	95.6%	4	106.5%	645	95.6%	339	97.0%	305	94.0%	166	92.7%	38	94.9%	101	96.0%
6月	619	96.3%	4	105.7%	615	96.3%	337	96.7%	278	95.7%	144	96.1%	36	93.3%	99	96.0%
7月	620	96.0%	4	96.1%	616	96.0%	340	97.1%	276	94.7%	134	92.8%	39	97.5%	102	96.1%
8月	601	95.9%	4	95.9%	598	95.9%	318	94.8%	280	97.2%	144	97.1%	38	100.1%	98	96.4%
9月	588	97.0%	4	96.9%	584	97.0%	337	96.5%	247	97.5%	116	99.3%	34	96.1%	97	96.0%
10月	608	97.8%	4	97.8%	604	97.8%	337	95.7%	267	100.6%	130	105.0%	35	100.1%	102	95.6%
11月	588	98.5%	4	98.5%	584	98.5%	310	95.5%	274	102.2%	138	109.4%	34	95.5%	102	96.0%
12月	618	99.5%	4	99.3%	614	99.5%	298	95.0%	317	104.2%	180	110.8%	37	93.9%	100	97.7%
1月	626	100.4%	4	100.1%	623	100.4%	302	94.6%	320	106.4%	188	114.3%	38	97.7%	94	96.5%
2月	598	104.8%	4	104.6%	594	104.8%	296	98.5%	298	111.8%	176	123.7%	34	103.6%	88	96.5%
3月	649	101.3%	4	101.1%	645	101.3%	303	94.4%	342	108.2%	201	117.7%	38	98.6%	103	96.4%
第1四半期	1,896	95.8%	12	105.7%	1,884	95.8%	997	96.7%	887	94.7%	473	93.1%	112	97.0%	301	96.6%
第2四半期	1,809	96.3%	11	96.3%	1,798	96.3%	995	96.2%	802	96.4%	394	96.2%	111	98.0%	297	96.2%
第3四半期	1,814	98.6%	11	98.5%	1,803	98.6%	945	95.4%	858	102.4%	447	108.6%	106	96.4%	305	96.4%
第4四半期	1,873	102.0%	12	101.9%	1,862	102.1%	901	95.8%	961	108.7%	565	118.3%	110	99.8%	285	96.5%
上期	3,705	96.1%	23	101.0%	3,682	96.0%	1,993	96.4%	1,689	95.5%	867	94.5%	223	97.5%	599	96.4%
下期	3,688	100.3%	23	100.2%	3,664	100.3%	1,846	95.6%	1,818	105.6%	1,011	113.8%	217	98.1%	590	96.4%
年度計	7,393	98.1%	46	100.6%	7,346	98.1%	3,839	96.0%	3,507	100.5%	1,879	104.0%	440	97.8%	1,189	96.4%

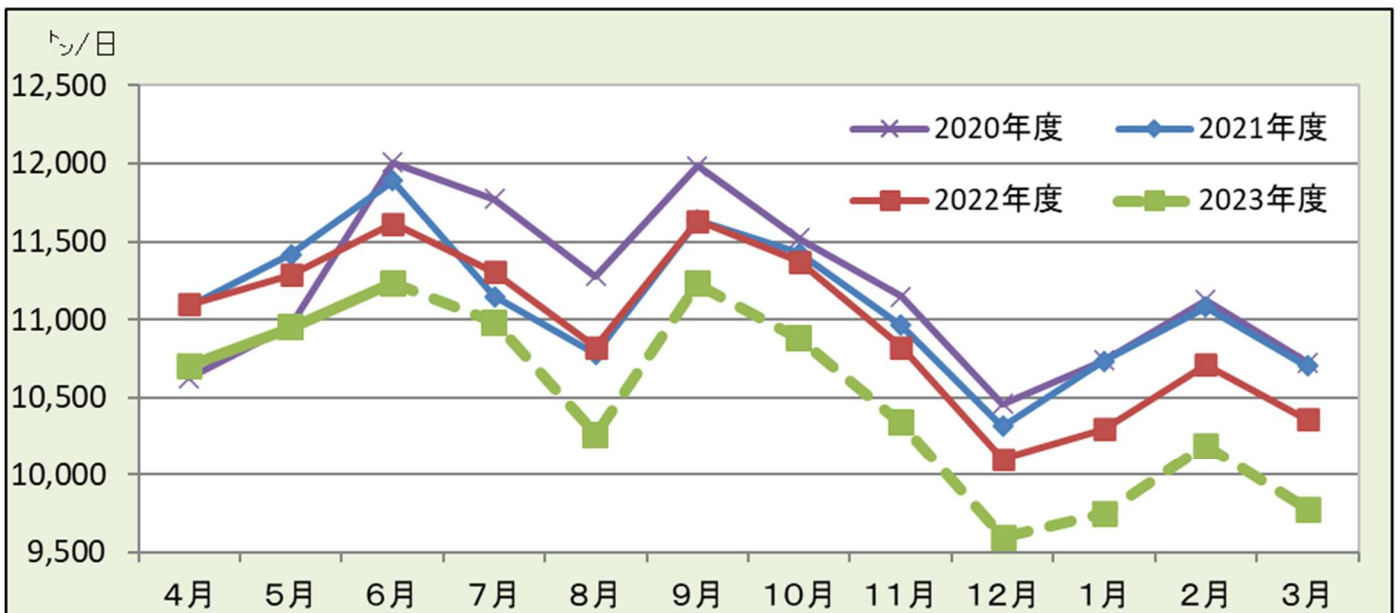
【2023年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」7,346千トン・前年比98.1%、「飲用等向処理量」3,839千トン・同96.0%、差し引き「乳製品向処理量」は3,507千トン・同100.5%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」440千トン・同97.8%、「生クリーム等向」は1,189トン・同96.4%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,879千トン・同104.0%と前年を上回る見通し。

【前回見通し(5/26公表)】: 「生乳供給量」7,352千トン・前年比98.5%、「飲用等向処理量」3,873千トン・同96.9%、「乳製品向処理量」3,499千トン・同100.3%(うち、「チーズ向」431千トン・同95.8%、「生クリーム等向」1,173トン・同95.1%、「脱脂粉乳・バター等向」1,896千トン・同105.0%)

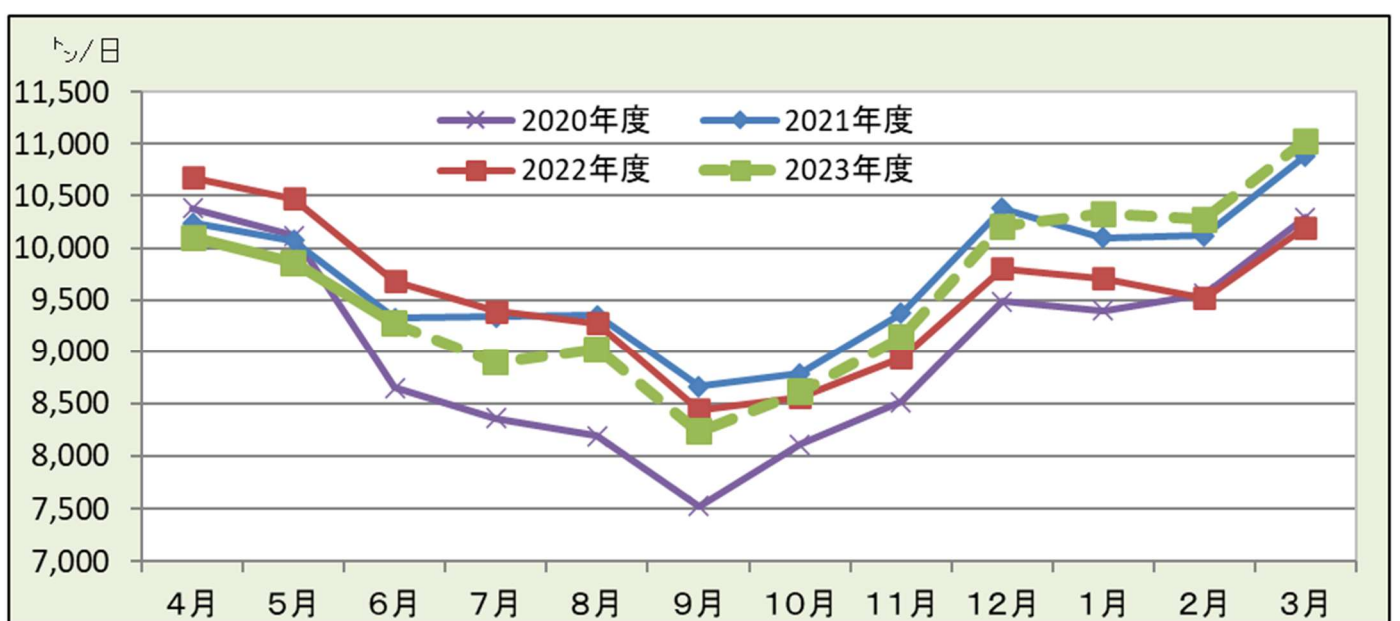
グラフ4-1：生乳供給量（日均量）



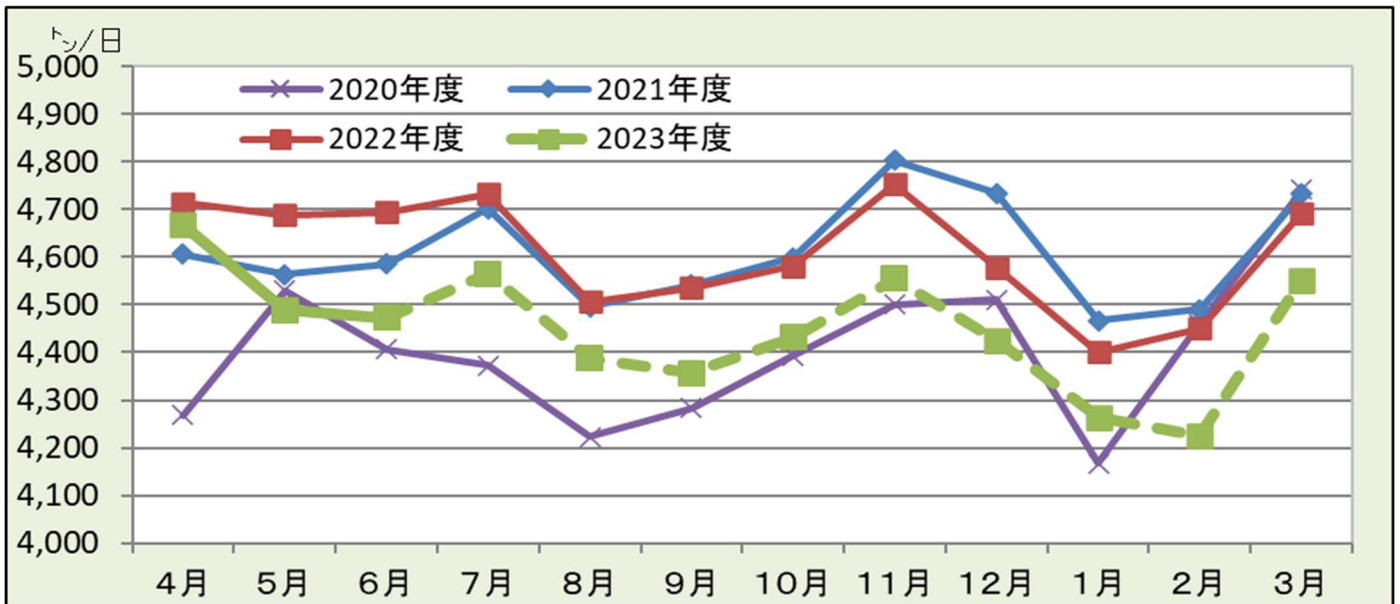
グラフ4-2：飲用等向生乳処理量（日均量）



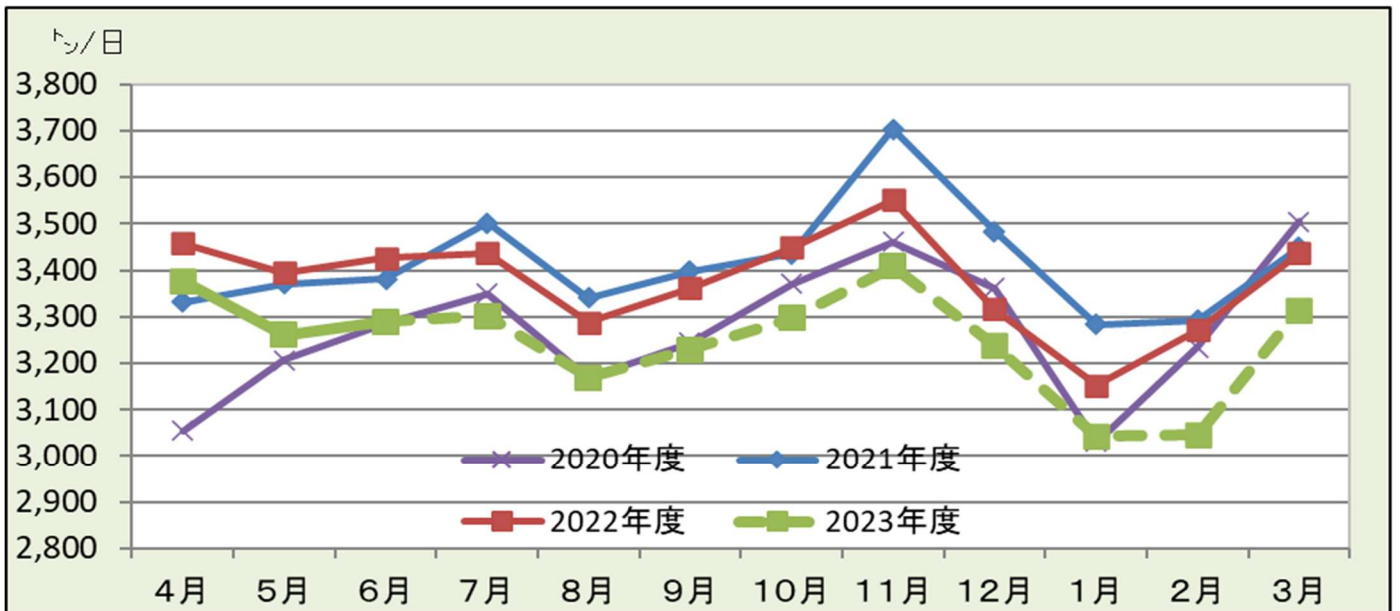
グラフ4-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



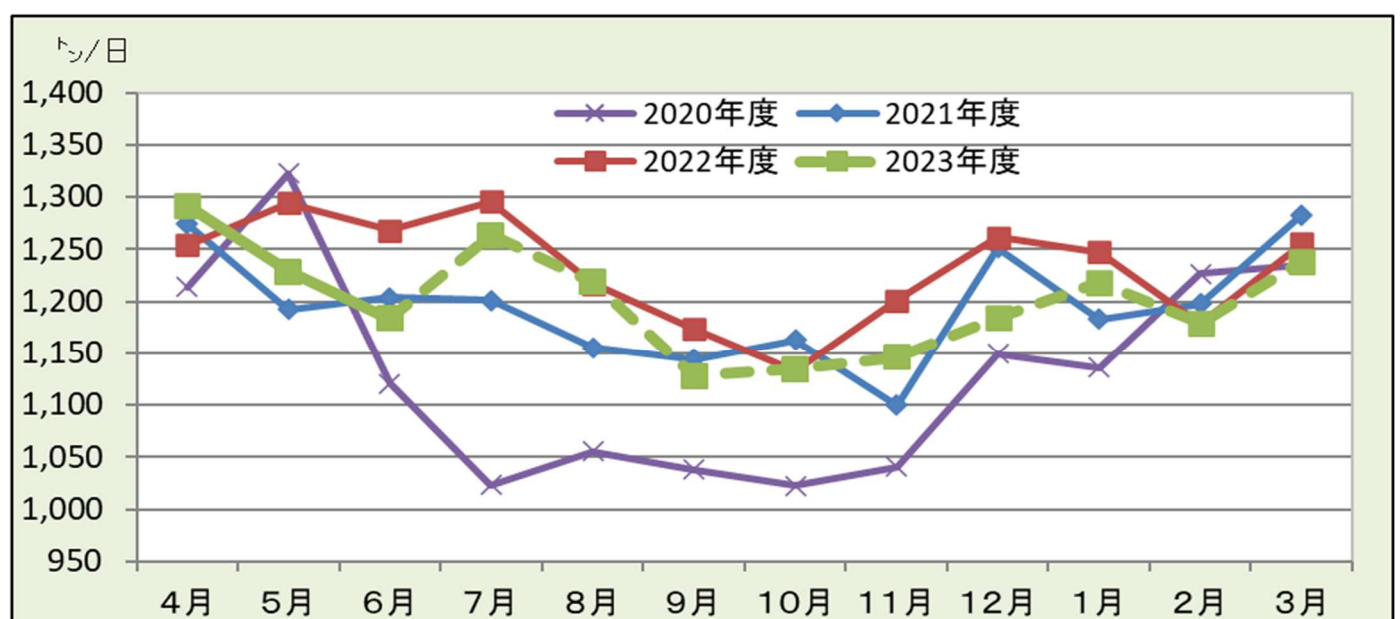
グラフ4-4：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ4-5：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ4-6：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1: 2022年度の脱脂粉乳の需給(網掛け:実績)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数	D	前年比
第1四半期	97.7	120.4%	43.1	107.1%	0.1	6.4	104.1	115.2%	6.6	9.3	36.8	116.5%
第2四半期	104.1	115.2%	34.1	97.1%	0.0	-11.2	92.8	103.3%	5.9	8.3	45.4	127.4%
第3四半期	92.8	103.3%	36.5	91.4%	0.0	-10.4	82.4	87.1%	5.3	7.4	47.0	133.1%
第4四半期	82.4	87.1%	40.7	91.6%	0.0	-18.0	64.4	65.9%	4.1	5.8	58.7	142.0%
上期	97.7	120.4%	77.2	102.4%	0.1	-4.9	92.8	103.3%	5.9	8.3	82.2	122.3%
下期	92.8	103.3%	77.2	91.5%	0.1	-28.4	64.4	65.9%	4.1	5.8	105.7	137.9%
年度計	97.7	120.4%	154.4	96.7%	0.2	-33.3	64.4	65.9%	4.1	5.8	187.9	130.6%

118.6	121.4%	7.6	10.6	133.7	106.3%
-------	--------	-----	------	-------	--------

※各対策を考慮しない場合(ホクレンの対策のうち2022出回り分(R3、R4対策)+ALLG+生処(Jミルク)) ※各対策分を考慮しない場合の出回り量(対策無し通常需要)

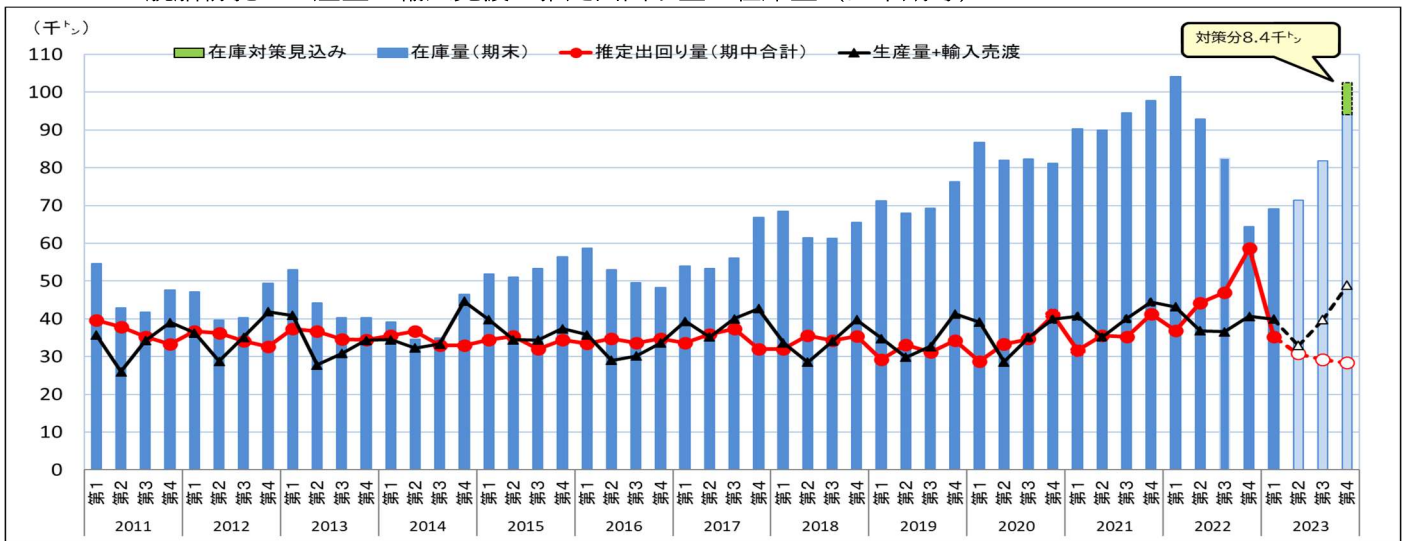
表5-2: 2023年度の脱脂粉乳の需給(見通し)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数	D	前年比
第1四半期	64.4	65.9%	39.7	92.2%	0.3	4.7	69.1	66.4%	6.7	6.8	35.2	95.7%
第2四半期	69.1	66.4%	32.8	96.3%	0.1	2.2	71.3	76.8%	6.9	7.0	30.7	67.7%
第3四半期	71.3	76.8%	39.7	108.6%	0.0	10.5	81.9	99.3%	8.0	8.1	29.2	62.1%
第4四半期	81.9	99.3%	48.1	118.4%	0.8	20.6	102.5	159.2%	10.0	10.1	28.3	48.1%
上期	64.4	65.9%	72.5	94.0%	0.4	6.9	71.3	76.8%	6.9	7.0	65.9	80.2%
下期	71.3	76.8%	87.8	113.7%	0.8	31.2	102.5	159.2%	10.0	10.1	57.5	54.3%
年度計	64.4	65.9%	160.3	103.9%	1.1	38.1	102.5	159.2%	10.0	10.1	123.4	65.7%

94.1	146.1%	9.2	9.3	131.8	70.1%
------	--------	-----	-----	-------	-------

※Jミルク対策のうち2023年度配分済分を考慮(2022年度繰り越し分) ※各対策分を考慮した出回り量との比: 90.9%

グラフ5: 脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量(四半期毎)



【2023年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量は160.3千トン・前年比103.9%、推定出回り量は123.4千トン・同65.7%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では90.9%)となる見通し。輸入売渡しは1.1千トンと仮定(※1)し、年度末在庫量は102.5千トン・同159.2%、単年度ギャップは38.1千トンと見込む。2022年度の業界協調の在庫削減対策のうち2023年度の出回りとなる数量10.3千トンを反映(約1.9千トンは4-6月の実績に含まれている)すると年度末在庫量は94.1千トン・同146.1%。なお、2023年度事業分は海外相場の変動等の環境変化を踏まえて事業の運用詳細について検討中であるため、本見通しでは考慮していない。

※1:2023年度枠(0.75千トン)から輸入売渡を推定、2022年度枠の輸入売渡を考慮すると合計1.1千トン。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(5/26公表)】:生産量162.2千トン・前年比105.1%、推定出回り量120.1千トン(対策除く)・同63.9%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では89.8%)。輸入売渡しは1.2千トンと仮定、年度末在庫量は107.7千トン・同167.3%。

表5'-1：2022年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数
第1四半期	39.6	101.8%	21.0	105.5%	2.0	2.2	41.8	98.9%	5.4	5.7	20.7	107.8%
第2四半期	41.8	98.9%	16.5	100.0%	2.2	-2.7	39.0	93.6%	5.0	5.3	21.5	116.5%
第3四半期	39.0	93.6%	15.8	93.3%	2.4	-8.2	30.8	83.1%	4.0	4.2	26.4	110.7%
第4四半期	30.8	83.1%	19.9	91.3%	2.4	-2.0	28.8	72.9%	3.7	3.9	24.3	113.8%
上期	39.6	101.8%	37.5	103.0%	4.2	-0.6	39.0	93.6%	5.0	5.3	42.2	112.0%
下期	39.0	93.6%	35.7	92.2%	4.8	-10.2	28.8	72.9%	3.7	3.9	50.7	112.2%
年度計	39.6	101.8%	73.2	97.4%	9.0	-10.7	28.8	72.9%	3.7	3.9	92.9	112.1%

33.5 84.7% 4.3 4.6 88.2 106.5%
 ※ホクレンの対策を考慮しない場合 ※対策分を考慮しない場合の出
 回り量(対策無し通常需要)

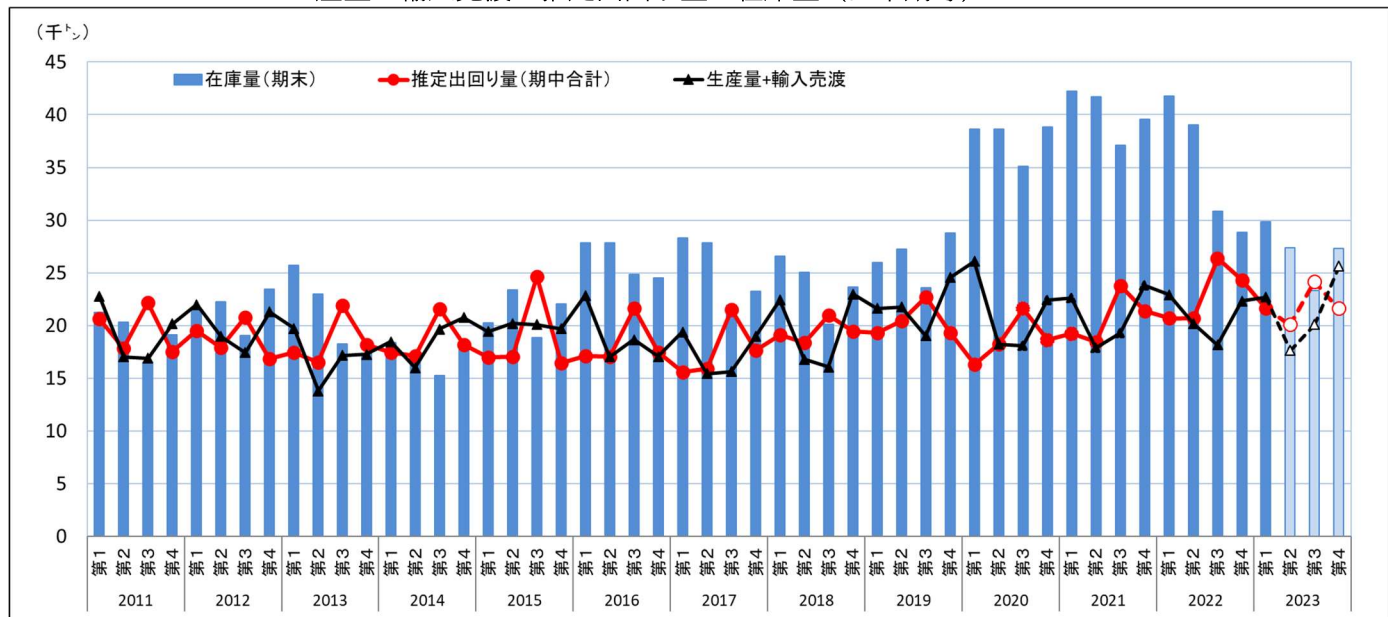
表5'-2：2023年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比	月数	D
第1四半期	28.8	72.9%	19.0	90.7%	3.7	1.0	29.9	71.5%	4.1		21.6	104.4%
第2四半期	29.9	71.5%	15.9	96.2%	1.7	-2.5	27.4	70.2%	3.8		20.1	93.6%
第3四半期	27.4	70.2%	17.2	108.6%	2.9	-4.1	23.3	75.6%	3.2		24.2	91.7%
第4四半期	23.3	75.6%	23.5	118.3%	2.1	4.0	27.3	94.8%	3.8		21.6	88.8%
上期	28.8	72.9%	34.9	93.1%	5.4	-1.4	27.4	70.2%	3.8		41.7	98.9%
下期	27.4	70.2%	40.7	114.0%	5.0	-0.1	27.3	94.8%	3.8		45.8	90.3%
年度計	28.8	72.9%	75.6	103.3%	10.4	-1.5	27.3	94.8%	3.8		87.5	94.2%

※前年対策除く出
 回り量との比: 99.2%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2023年度のバター需給の見通し】生産量は75.6千トン・前年比103.3%、推定出回り量は87.5千トン・同94.2%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では99.2%)となる見通し。輸入売渡しは10.4千トンと仮定(※1)し、年度末在庫量は27.3千トン・同94.8%、単年度ギャップは▲1.5千トンと見込む。

※1:2023年度枠(8.0千トン)から輸入売渡を推定。2022年度枠の輸入売渡を考慮すると合計10.4千トン。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(5/26公表)】:生産量76.8千トン・前年比104.9%、推定出回り量84.4千トン(対策除く)・同90.8%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では95.6%)。輸入売渡しは9.2千トンと仮定、年度末在庫量は30.5千トン・同105.7%。

6. 都府県の生乳需給の動向

表6-1: 2022年度の都府県の需給(網掛け:実績)

(千トン)

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	291	100.4%	285	99.4%	6	104.8%	1	31	99.6%	32	108.4%
5月	297	99.8%	302	98.6%	5	101.9%	-10	37	102.1%	27	119.4%
6月	277	99.9%	300	97.0%	5	101.5%	-27	43	90.5%	15	139.1%
7月	272	100.5%	298	100.3%	5	103.5%	-31	48	104.6%	17	116.9%
8月	261	98.4%	285	100.0%	5	99.7%	-29	48	106.0%	19	92.4%
9月	256	98.6%	298	99.1%	5	100.9%	-47	55	97.4%	9	78.7%
10月	267	98.9%	302	99.3%	5	99.0%	-41	51	101.2%	10	98.6%
11月	259	97.6%	279	98.5%	6	97.6%	-26	38	98.6%	12	82.1%
12月	270	97.3%	269	98.1%	6	100.7%	-6	35	100.7%	30	93.1%
1月	273	97.1%	275	96.5%	5	94.3%	-7	33	97.2%	26	104.7%
2月	251	96.6%	258	96.5%	5	99.9%	-12	32	92.3%	20	90.2%
3月	284	96.1%	276	97.3%	6	101.2%	3	31	99.4%	34	89.3%
第1四半期	866	100.0%	887	98.3%	16	102.7%	-37	111	96.6%	74	117.8%
第2四半期	789	99.2%	881	99.8%	15	101.4%	-107	151	102.3%	44	97.0%
第3四半期	795	97.9%	850	98.6%	17	99.1%	-72	124	100.2%	52	91.3%
第4四半期	808	96.6%	809	96.8%	15	98.5%	-17	96	96.2%	79	94.0%
上期	1,654	99.6%	1,767	99.0%	31	102.1%	-144	262	99.8%	119	109.1%
下期	1,603	97.2%	1,659	97.7%	32	98.8%	-88	219	98.4%	131	92.9%
年度計	3,257	98.4%	3,427	98.4%	63	100.4%	-232	482	99.2%	250	100.0%

表6-2: 2023年度の都府県の需給(網掛け:実績 白色:見通し)

(千トン)

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	95.1%	275	96.5%	6	103.4%	-4	31	100.6%	27	86.7%
5月	281	94.4%	292	96.9%	5	98.0%	-17	38	102.5%	21	77.6%
6月	261	94.2%	289	96.6%	5	100.0%	-33	47	108.8%	13	86.6%
7月	256	94.3%	289	97.1%	5	100.0%	-38	51	106.1%	13	77.6%
8月	246	94.1%	270	94.6%	5	100.0%	-29	46	95.8%	17	88.9%
9月	242	94.8%	287	96.5%	5	100.0%	-50	58	104.2%	8	94.0%
10月	254	95.3%	288	95.3%	5	100.0%	-39	49	95.5%	10	95.5%
11月	248	96.0%	265	95.3%	6	100.0%	-23	35	93.1%	12	101.7%
12月	262	97.0%	256	95.0%	6	100.0%	-0	34	95.4%	33	112.2%
1月	267	97.9%	260	94.5%	5	100.0%	2	32	95.3%	33	129.9%
2月	256	102.2%	254	98.3%	5	100.0%	-2	31	99.1%	29	149.7%
3月	281	98.9%	259	94.0%	6	100.0%	16	29	95.2%	46	135.4%
第1四半期	819	94.6%	857	96.7%	16	100.5%	-54	116	104.4%	62	83.3%
第2四半期	744	94.4%	846	96.1%	15	100.0%	-117	155	102.1%	38	85.6%
第3四半期	764	96.1%	809	95.2%	17	100.0%	-62	117	94.8%	55	106.5%
第4四半期	805	99.6%	773	95.5%	15	100.0%	16	92	96.5%	109	137.2%
上期	1,563	94.5%	1,703	96.4%	31	100.3%	-171	270	103.1%	100	84.1%
下期	1,569	97.9%	1,583	95.4%	32	100.0%	-46	210	95.5%	164	125.1%
年度計	3,132	96.2%	3,286	95.9%	63	100.1%	-217	480	99.6%	264	105.6%

【2023年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,132千トン・前年比96.2%、「飲用等向処理量」は3,286千トン・同95.6%、北海道から都府県への「移入必要量(道外移出量)」は、480千トン・同99.6%となる見通し。8月以降には更に飲用需要減少が見込まれるが、5月公表見通しを上回るペースで生乳供給量が減少すると見通しており、飲用最需要期となる9月については58千トン・104.2%と前年を上回ると予測した。

【前回見通し(5/26公表)】:生乳供給量3,164千トン・97.1%、飲用等向3,314千トン・96.7%、移入量(道外移出量)473千トン・98.3%。飲用最需要期となる9月については53千トン・96.6%。

7. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

2023 年度の酪農乳業・生乳需給を取り巻く環境は例年以上に不透明であることを踏まえ、前回の需給見通しの公表資料（5月26日公表）において、その不確定要素を下記のとおり整理した経過にある。

●需給見通しにおける不確定要素

【生乳生産量】

- ✓生産コストの上昇による経営体数の減少(廃業の増加)
- ✓国際情勢の変化による為替や輸入飼料の価格変動
- ✓生乳生産抑制の進捗
- ✓今年度産の国産飼料の品質・量
- ✓天候・気温 など

【牛乳乳製品需要量】

- ✓消費動向の変化
(コロナ禍規制緩和による購買行動の変化、業務用・インバウンド需要の回復、家計負担の増嵩)
- ✓4月以降の乳製品向取引乳価の引き上げに伴う製品価格改定の需要への影響と
脱脂粉乳・バター需要の跛行性
- ✓8月以降の飲用等向取引乳価の引き上げに伴う製品価格改定の需要への影響
- ✓国際情勢の変化による為替、海外乳製品相場の変動
- ✓天候・気温 など

【乳製品在庫量】

- ✓上記の要因により、生乳生産量、牛乳乳製品需要量が変動することで乳製品在庫量に増減が発生

前回の需給見通し公表から約2ヶ月が経過しているものの、不確定要素それぞれに大きな変化はなく、その動向によっては生乳需給に過不足が生じる可能性がある。そのため、今後の生乳需給に係る課題や対応については、上記の環境変化を見極めつつ、適宜適切な情報発信および下記の課題について柔軟に対応することが重要となる。

1. 今夏の生乳需給調整とその課題について

生乳生産コストの高止まりを背景に、全国の酪農生産者は過去に前例がないペースで経営を中止（廃業）しているほか、生産抑制の効果等により生乳生産量は前年を大きく下回っている。一方、昨年11月の製品価格改定に加え、相次ぐ物価高騰による生活防衛意識が作用し、牛乳類を中心とした需要は低調な状況が続いている。

今夏の飲用需要への対応についても、北海道から都府県への移出量は輸送能力上問題なく対応できる水準にあるが、気象庁によると今夏は全国的に暑い日が多くなる予報が出されており、今後の気温や天候等によっては、生乳生産量の更なる減少と飲用需要の増加により、一時的に需給が不足傾向となる可能性がある。

こうしたことから、酪農乳業関係者は情勢の変化を注視しつつ綿密な需給情報を共有するとともに、北海道からの生乳輸送を中心とした万全な広域流通体制等を通じて、供給不足による混乱が生じないよう地域別需給動向にも配慮したきめ細かい需給調整を推進する必要がある。

2. 乳製品需給における課題と対応について

4月に製品価格改定があったものの、バターはインバウンドの回復、新型コロナの5類移行による経済活動が活発となった影響等によって業務用を中心に需要（出回り量）は堅調に推移しており、国家貿易による輸入売渡を含めた乳製品の供給量と出回り量の単年度ギャップ（製品ベース）は均衡水準にある。一方、脱脂粉乳については、はっ酵乳等の低迷が続き、単年度ギャップは38千トと過剰感は継続している。

両品目の需給の跛行性は依然として顕著ななか、前述のような様々な不確定要素を踏まえ、今後危惧される需要変動について対応を検討する必要がある。

バターについては、今回の予測以上に需要が拡大する可能性があるため、引き続き消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて安定供給に努める必要がある。一方、単年度ギャップの大きい脱脂粉乳は、更なる需要の減少により想定以上に在庫量が増加する可能性も否定できない。これまで以上に理解醸成活動、牛乳乳製品の消費拡大を図り在庫量を積み増さないよう取り組むとともに、今年度も国の支援を得ながら全国の生産者・乳業者が協調して取り進める在庫削減対策について、国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限かつ積極的に活用することが重要なポイントとなる。

3. 牛乳乳製品需要の維持・拡大への対応について

生乳需給を取り巻く環境は、生乳生産量の減少以上に飲用等向を中心とした牛乳乳製品需要が低迷し、総じて緩和が見込まれる状況は変わっていない。8月には飲用等向取引乳価の引き上げや包装資材費、物流費等の諸経費高騰に伴う製品価格が再度改定となり、今回の需給見通しでも更なる需要の低下を見込まざるを得ない。

そのため、牛乳乳製品への評価や支持を得られるよう酪農乳業が地域コミュニティに果たしている社会的・経済的役割や健康リスク・社会的課題に対しての栄養的・健康的な価値の週及など、より一層消費者理解を得られるよう取り組む必要がある。併せて、「Jミルクが国や他団体・企業と連携した「牛乳でスマイルプロジェクト」の取り組みなど業界外関係者も巻き込んだ消費拡大策による市場の活性化も欠かせない。

生乳需給や酪農経営の安定化、生産抑制からの脱却、乳製品在庫の適正化など現下の難局を乗り越えるためには、酪農乳業関係者自らが率先して継続的にこれらの取り組みを実行することが求められる。